

## 巻 頭 言

### 情報に振り回されていませんか？

理事（企画担当）・全学情報総括責任者 吉澤 篤

皆さんは電子メールを使用しインターネットで検索することが、蛇口をひねれば水が出るように、トラブル無しに出来るのが当たり前のように思っていないでしょうか。私自身がそうです。しかし、そこには利便性とともな様々な危険が潜んでいます。情報のやり取りを見守り、思わぬ危険から皆さんを守っている組織があります。それが総合情報処理センターで、いわば現代の「ザ・ガードマン」です。しかし、手を変え品を変え、防御をかいくぐる種々のわながしかけられ、その結果、各大学のホームページの改ざんや情報漏洩等が後を絶ちません。昨年来、文部科学省も強い危機感を持ち、情報セキュリティの強化について全国の国立大学に矢継ぎ早に要請を行っています。本学もこれに応えるべく構成員の皆様のご協力を得て全学の体制を整備しています。全学情報システム運用委員会及びセキュリティインシデント対応チーム（弘前大学 CSIRT）を設置するとともに、総合情報処理センターの在り方について議論をしているところです。また、守るのみでなく攻めも必要です。全学の情報管理運営体制を整えるとともに、本学の広報という観点も含め情報発信についての戦略を構築したいと考えています。

さて、情報はコンピューターを介してだけではありません。言った言わないはよく有るトラブルですが、そうならないために文書を残します。しかし、主語が不明確であったり、論理構成がわかりにくいと読み手によって内容が変わってしまうこともあります。小説では読み手が想像を膨らませ、作者とは違う解釈が生まれることを良しとするのかもしれませんが、業務文書としては落第です。また、書き手の意図が隠されたものも見受けられます。例えばよく用いられている「等」です。そこには書き手の思いが込められているのかもしれませんが、読み手はそこまで深読みしません。そして適用範囲を誤解してしまいます。解釈を説明しなければ意図が通じない文書は役に立ちません。それにより仕事の方向を見誤り、よけいな仕事を増やします。「こうも読めるではないか」と言ったところで後の祭りで誰も幸せにはなれません。簡潔で明快な文書により大学構成員皆が正確な情報を共有することができます。そして共通認識のもと同じ土台の上で議論してこそ、大学のもつ多様性が奏功し果実を生むと思います。議論して、その中から新しいアイデアが生まれ、それにより本学を発展させることが出来ると確信しています。かく言う私も情報に振り回され、周囲の皆さんを混乱させているのではと自戒しています。

平成 29 年度は攻守を念頭においた本学の情報基盤を構築します。セキュリティ対策や情報資産の効率的な管理運営にも取り組みます。そこでは利用者である構成員の皆様のご意見がたいへん貴重なものとなります。今後ともご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。